

洗足学園音楽大学大学院

大学院ピアノコンチェルト研究演奏会①



ピアノ
石崎 美希 (大学院1年)



ピアノ
寺島 梨湖 (大学院1年)



ピアノ
小田 紀 (大学院1年)



電子オルガン
赤塚 博美 (本学教授)



指揮
上野 正博 (本学教員)

2023年3月7日 [火]
開演 18:00 開場17:30
洗足学園 前田ホール

W.A.モーツァルト /
ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 KV.488

L.v.ベートーヴェン /
ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 Op.58

C.サン=サーンス /
ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22

- ▲新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い
- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
 - ・大声や対面での会話はお控えください。
 - ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
 - ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
 - ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
 - ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
 - ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

== PROGRAM ==

指揮 ^{うえの まさひろ} 上野 正博 (洗足学園音楽大学教員)

電子オルガン ^{あかつか ひろみ} 赤塚 博美 (本学教授)

^{いとう ゆうか} 伊藤 友香 (学部 3 年) ^{いなげ あやね} 稲葉 絢音 (学部 3 年) ^{くぼやま はな} 窪山 花 (学部 3 年)
^{むかだ まみ} 向田 真未 (学部 3 年) ^{うつみ ななみ} 内海 菜々美 (学部 4 年) ^{リ セン イ チ} LI QINGZHI (大学院 1 年)

打楽器

^{おおにし ゆうと} 大西 悠斗 (大学院 2 年) ^{あずま れんご} 東 廉悟 (大学院 2 年)

弦楽器

^{はやかわ もね} 1stVn 早川 萌音 (学部 4 年) ^{よりちか ゆりな} 2ndVn 頼近 友莉奈 (学部 4 年)
^{よねくら みはる} Va 米倉 海陽 (学部 4 年) ^{おおとも みゆ} Vc 大友 美侑 (本学卒業生) ^{こいずみ そういちろう} Cb 小泉 聡一郎 (学部 3 年)

^{いしざき みき} 石崎 美希 (大学院 1 年)

W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第 23 番 イ長調 KV.488

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.23 A -dur KV.488

I. Allegro

II. Adagio

III. Allegro assai

^{てらしま りこ} 寺島 梨湖 (大学院 1 年)

L.v.ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第 4 番 ト長調 Op.58

Ludwig van Beethoven(1770-1827)//Konzert für Klavier und Orchester Nr.4 G-dur Op.58

I. Allegro moderato

II. Andante con moto

III. Rondo Vivace

～ 休憩 ～

^{おだ すみ} 小田 紀 (大学院 1 年)

C.サン=サーンス / ピアノ協奏曲 第 2 番 ト短調 Op.22

Charles Camille Saint-Saëns(1835-1921)//Concerto pour piano et orchestre No.2 g-moll Op.22

I. Andante sostenuto

II. Allegro scherzando

III. Presto

～ Program Note ～

■W.A.モーツァルト / ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 KV.488

この曲は1786年、モーツァルトが30歳の時に書き上げられた。この時ウィーンで絶大な人気を誇っており、この曲を書き上げた2ヶ月後には《フィガロの結婚》の初演も控えていた。そのため曲中からは絶頂期ならではの華やかさや伸びやかさが感じられ、モーツァルトの後期のピアノ協奏曲の中では最も広く知られており、屈指の人気を誇る。

オーケストラの楽器編成では、オーボエがなく、その代わりに当時新しい楽器として注目されていたクラリネットが使用されている。また、トランペットとティンパニーも使用しておらず、クラリネットの影響も相まって室内乐的なやわらかな響きが特徴的である。

第1楽章 Allegro

オーケストラの美しい旋律に導かれて始まり、ピアノとオーケストラの掛け合いが心地よい。終結部にはモーツァルト自身によるカデンツァが30小節にわたり書かれている。

第2楽章 Adagio

モーツァルトには珍しく嬰へ短調で書かれている。シチリアーノのリズムにのり、静かにそして哀愁漂う音楽である。

第3楽章 Allegro assai

ロンド主題が4回現れる間に、魅力的な副主題がいくつも用いられているのがこの楽章の特徴である。終始華やかで、スピード感のあるパッセージが繰り返されており幸福感を存分に感じられる。

石崎 美希 (大学院1年)

■L.v.ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 Op.58

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)は、少年時代の習作、未完に終わった第6番、自作のヴァイオリン協奏曲のピアノ編曲を除いて、全部で5曲のピアノ協奏曲を書き残している。それらの作品はどれも素晴らしく、モーツァルトの諸名作の流れを受け継いでいて、古典派協奏曲を集大成し、ロマン派協奏曲を導く充実した作品群である。そんな傑作揃いのなかであって、最も美しく、最も深い内容を持つこの第4番の協奏曲は、ロマン・ロランが「傑作の森」と呼んだ、ベートーヴェン壮年期の1806年に完成された作品である。

第1楽章 Allegro moderato

曲の冒頭からピアノ独奏によって奏でられる。同音連打で始まる主題は、この協奏曲のスケッチが交響曲第5番「運命」の1ページ目のスケッチの直後に書かれていることもあり、しばしば「運命動機」との関連が指摘されている。長大なカデンツァの後は再び拮拠りを見せ、最後は5オクターブに及ぶ劇的な和音で終わる。

第2楽章 Andante con moto

ピアノと弦楽器による「対話」が深い味わいを作り出している。次第に弦とピアノの間隔が狭まっていき、嘆きの歌とも言える切ないピアノの旋律があらわれる。トリルをきっかけに悲しみにあふれた盛り上がりを見せた後、再び精神的な美しさが戻ってくる。

第3楽章 Rondo Vivace

第2楽章のピアノのささやくような音のなかから、切れ目なく第3楽章が始まる。第2楽章とはうって変わり、終始軽やかで明るいこの楽章では、トランペットとティンパニが初めて登場する。生き生きした中にも優美さを失わないロンド・フィナーレで、カデンツァは、オクターブとアルペジオ(分散和音)によるトゥッカータ風に書かれている。最後は、アルペジオの拮拠りを効果的に使い、第1楽章同様に5オクターブの和音でドラマティックに全曲を締める。

寺島 梨湖 (大学院1年)

■C.サン=サーンス / ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22

カミーユ・サン=サーンスはフランスの作曲家、ピアニスト、オルガニストである。幼い頃からピアノやオルガン演奏では神童と称され各地を演奏して回っており、20代の彼はヴィルトゥオーゾとして絶大な名声を獲得している。ピアノ協奏曲 第2番は1868年に作られた。作曲に着手してから自身による初演までわずか3週間ほどしかなかったため、十分な準備が出来なかったが演奏会は好評を博した。

サン=サーンス初期の代表作であり、彼のピアノ作品の中でも傑作のひとつとして数えられる。各楽章の音楽的コントラストが非常に顕著である。

第1楽章 *Andante sostenuto*

バロック音楽を思わせる即興的なカデンツァに始まる。ピアノソロにより第1主題と第2主題が提示される。再現部で管弦楽により第1主題が再現された後、ピアノの長大なカデンツァが続く。第2主題は再現せず最後に序奏が短く再現され、劇的な和音で終わる。

第2楽章 *Allegro scherzando*

ソナタ形式で書かれたスケルツォ風の軽妙な楽章。ティンパニの軽やかな跳ね返りをうけてピアノが澁刺とした第1主題を奏する。この楽章では主題の交換、戯れのような掛け合いを楽しめる。この掛け合いの合間をぬって奏されるソリストの音階やアルペッジョが華やかな彩りを与えている。

第3楽章 *Presto*

タランテラ風で動きの激しい楽想。前の楽章より管弦楽の役割が増し、響きに厚みがある。3つの主題が取り扱われる規模の大きいコーダまで音楽の勢いは衰えず、ト短調の主和音を強調して終結するまで一気に駆け抜ける。

小田 紀 (大学院1年)

Profile

うえの まさひろ

上野 正博 指揮

(東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学
講師)



神奈川県生まれ。

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻修了。

‘94年、東京国際音楽コンクール・指揮部門にて「入選」。‘96年、ベルリン芸術大学に留学。その後、「ベルリン・ドイツ・オペラ」の指揮研究員として研鑽を重ねる。‘98年、ミトロプーロス国際指揮者コンクールに最高位(1位なし2位)入賞を果たし、併せて「ミトロプーロス・ゴールドメダル」を授与される。

今までに、東京都響、読売日響、東京フィル、東京響、東京シティ、新日本フィル、神奈川フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、広島響、札幌響、九州響、関西フィル等を指揮し、好評を得てきた。また、ドイツの名匠G.アル

ブレヒトに直接指名される等、オペラスタッフとしても経験を積み、自らも、多くのオペラを指揮している。

海外では、2000年に国立ワルシャワ・フィル定期公演、ウィーン室内管のオーストリア・ツアーを指揮してヨーロッパ・デビュー。地元紙にも「的確な棒さばき」と評価された。‘06年には、ラボラトリウム国際現代音楽祭(ワルシャワ)に招聘された。

昨年2月には、テレビ朝日「関ジャム完全燃SHOW」に出演。活動の幅を広げている。

現在、東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学講師。

あかつか ひろみ

赤塚 博美 電子オルガン

(洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授)

学生時代よりエレクトーンコンクール国際大会などで、数々の音楽賞を受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノスカラ座のG・ピサーニ氏に学び数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。国際的フルート奏者の工藤重典氏と共演し、電子オルガンの可能性を引き出す演奏に絶賛され、繊細な音楽のニュアンスまでも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。

編曲、演奏を担当したCD“Message for You”を水野佐知香氏、神谷百子氏と共にリリース、好評を博す。

現在、洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授。





いしざき みき
石崎 美希 (大学院1年) ピアノ

栃木県出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科、洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。現在同大学院1年に在籍。大学在学中、2021年度洗足学園特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを小久保素子氏、ソルフェージュを高鳥舞氏に師事。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。



てらしま りこ
寺島 梨湖 (大学院1年) ピアノ

熊本県出身。3歳よりピアノを始める。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。第8回ヨーロッパ国際ピアノコンクール全国大会高校生の部、金賞及び審査員特別賞受賞。第10回日本バッハコンクール全国大会金賞。第19回九州音楽コンクール銀賞。大学在学中、2019～2021年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。ジェローム・グランジョン、ルイス・フェルナンド・ペレス、グヤーシュ・マルタなどの各氏の特別レッスンを受講。これまでにピアノを谷口昌子、塩津貴子の各氏に、現在ピアノを鳥羽瀬宗一郎、浦壁信二の各氏に師事。



おだ すみ
小田 紀 (大学院1年) ピアノ

神奈川県出身。4歳よりピアノを始める。洗足学園音楽大学 学部2年次、ウィーン研修に参加。卒業演奏会に声楽伴奏者として出演。現在ピアノを三瓶弥生氏に師事。

2022 大学院ピアノコンチェルト研究演奏会

■授業等責任者：江崎 昌子^{えざき まさこ}

■電子オルガン助手：歐 佳欣^{オウ ジャン} 松下 紗弓^{まつした さゆみ}

■ステージ・マネージャー：野澤 朋子^{のざわ ともこ} 影山 舞^{かげやま まい}

■音響：能藤 伸^{の と しん} (ミュージッククラフト)

■AC (アカデミック・コーディネータ)：牛頭 真也^{こず しんや}